

◆よく見て操作しよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態

- ・小学部 視覚障害・知的障害
- ・簡単な形や色の弁別はできる。
- ・視覚障害があり、視野が狭い。

2 指導目標

- ・対象物をよく見ながら手指操作をすることができる。

3 取組の中心となる教科・領域等

自立活動（環境の把握）

4 使用したアプリ、周辺機器

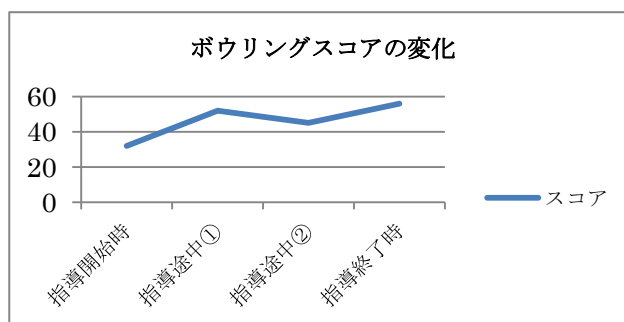
- ・「ぷちぷち気分」：イラストの気泡緩衝材をぷちぷちとつぶしていくアプリ。
- ・ボウリングアプリ：玉がはっきりした配色で見やすく、また、転がる音やピンが倒れる音がリアルで、興味を引きやすい。

5 指導の経過及び児童生徒の変容

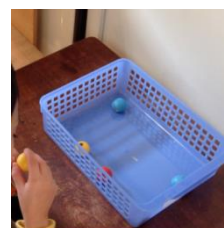
- ・指導期間 6月28日～1月17日
- ・視覚障害のために下方が見えにくいため、iPadを自作の書見台において活動をした。机上でのpegさしなどの活動には粘り強く取り組むが、iPad指導前は、手探りで穴に入れる様子が目立っていた。このため、注目してアプリを操作することが必要で、上記のアプリを使用して指導を行った。

○ 指導開始時と終了時のボウリングスコアの変化

- ・指導開始時（6月28日）
スコア 32
- ・指導終了時（1月17日）
スコア 56



また、ボウリングアプリ以外の場面においても、右の写真のように、追視しながらpegさしや、玉入れ、ひもとおしなどをする様子が見られるようになった。



6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

- ・ボウリングという達成感のあるアプリを用いることで、興味を持って学習に取り組むことができたと考えられる。
- ・視野の狭さに配慮したタブレットの提示の仕方を工夫することで、無理なく学習に取り組めた。
- ・iPad学習の後にプリント学習をすることで、実際の生活場面でも学習に生かすことができた。